

第2学年 算数科学習指導案

児童

指導者 T1

T2

1 単元名 新しい計算を考えよう [かけ算(1)] (東京書籍 2年 p.2~24)

2 単元について

本単元で育てたい 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 乗法の意味について理解し、計算の意味や計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質を見出したりする力 乗法のよさに気付き、今後の生活や学習に活用しようとする態度 	
学習指導要領の 位置付け	知識及び技能	A(1)ア(エ)(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	思考力, 判断力, 表現力等	A(1)イ(ア)(3)イ(ア)(イ)

単元構想

【教材について】

- 本単元では、5, 2, 3, 4の段の九九を学習する。乗法が用いられる場面を通して、乗法の意味について理解し、乗法九九を確実に唱えることができるようにするとともに、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考える単元である。
- 「全部の数」を求めるには、「一つ分の数」と「いくつ分」を捉えて、その関係に着目すれば、「(一つ分) × (いくつ分) = (全部の数)」という乗法の式に表せることを学ぶ。
- 同数累加の考えをもとに、「乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える」という性質を用いて九九の構成の仕方を考える。

【児童について】

- 第1学年では、10のまとまりがいくつと数えてものの総数を求めたり、数を2ずつ、5ずつなどの同じ大きさの集まりにまとめて数えたりするなど、乗法の素地を学習してきている。

【指導にあたって】

- 写真と具体物を結び付けながら、九九の構成や成り立つ性質に気付かせていく。
- 既習である、10のまとまりに着目してものの総数を求めたり、同じ大きさの集まりにまとめて数えたりすることを生かして、乗法の意味の理解を深められるようにする。
- 2の段や5の段の九九の構成において、それぞれ二つずつまたは五つずつ増えるという増え方のきまりを捉えさせたいうえで、3, 4の段でも同じように考えればよいことに気付かせ、自力で答えを導くことができるようにする。
- 対話的活動については、3人(4人)の班で行う。友達と答えや考え方を確かめることで、自分の答えに自信をもったり、全員が説明したりできるようにする。
- 本単元は次のようなTTでの協力指導を行う。
 - T2は理解が困難な児童に対して個別指導を行ったり、T1と児童の考えを共有し全体への指導につなげたりする。
 - T2は自力解決に向けて、ヒントコーナーで解決のためのヒントを提示する。

3 単元の目標

- (1) 乗法が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味や乗法に関して成り立つ性質（乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則）を理解し、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（5，2，3，4の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。
【知識及び技能】
- (2) 数量の関係に着目し、累加の考え方や乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 数学的に表現・処理したこと振り返り、数理的な処理や乗法によさに気付き、今後の生活や学習に活用しようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 乗法は、一つ分の大きさが決まっているときに、その幾つ分かに当たる大きさを求める場合に用いられるなど、乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ② 乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。 ③ 乗法が用いられる場合を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ④ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。	① 乗法が用いられる場面を、絵や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を具体的な場面と結び付けて捉えたりしている。 ② 計算の仕方を振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それを基に乗法を構成したりしている。	① 累加の簡潔な表現としての乗法によさに気付き、ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 ② 累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして、乗法九九を構成しようとしている。

5 単元指導計画（22時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等 「・」…指導に生かす評価 「○」…記録に残す評価		
			知	思	態
1	「一つ分の数」「いくつ分」ととらえ、「一つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。	① 数量の関係に着目して全体の数量を「一つ分の数」「いくつ分」ととらえようとする。		・思① 行動観察 ノート分析	・態度① 行動観察 ノート分析
2		① 乗法の意味を理解する。 ② 用語「かけ算」、記号「×」を知る。			
3	乗法の場面を式やおはじきで表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。	① 数量の関係に着目して乗法の場面を式に表す。	・知① 行動観察 ノート分析		
4		① 数量の関係に着目して乗法の場面をおはじきや式で表す。		○思① 行動観察 ノート分析	
5	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	① 数量の関係に着目して同数累加による乗法の答えの求め方を考える。	・知① 行動観察 ノート分析		
6	倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求める時もかけ算を用いることを理解する。	① 「倍」の意味を理解し乗法を適用する。	・知①③ 行動観察 ノート分析		

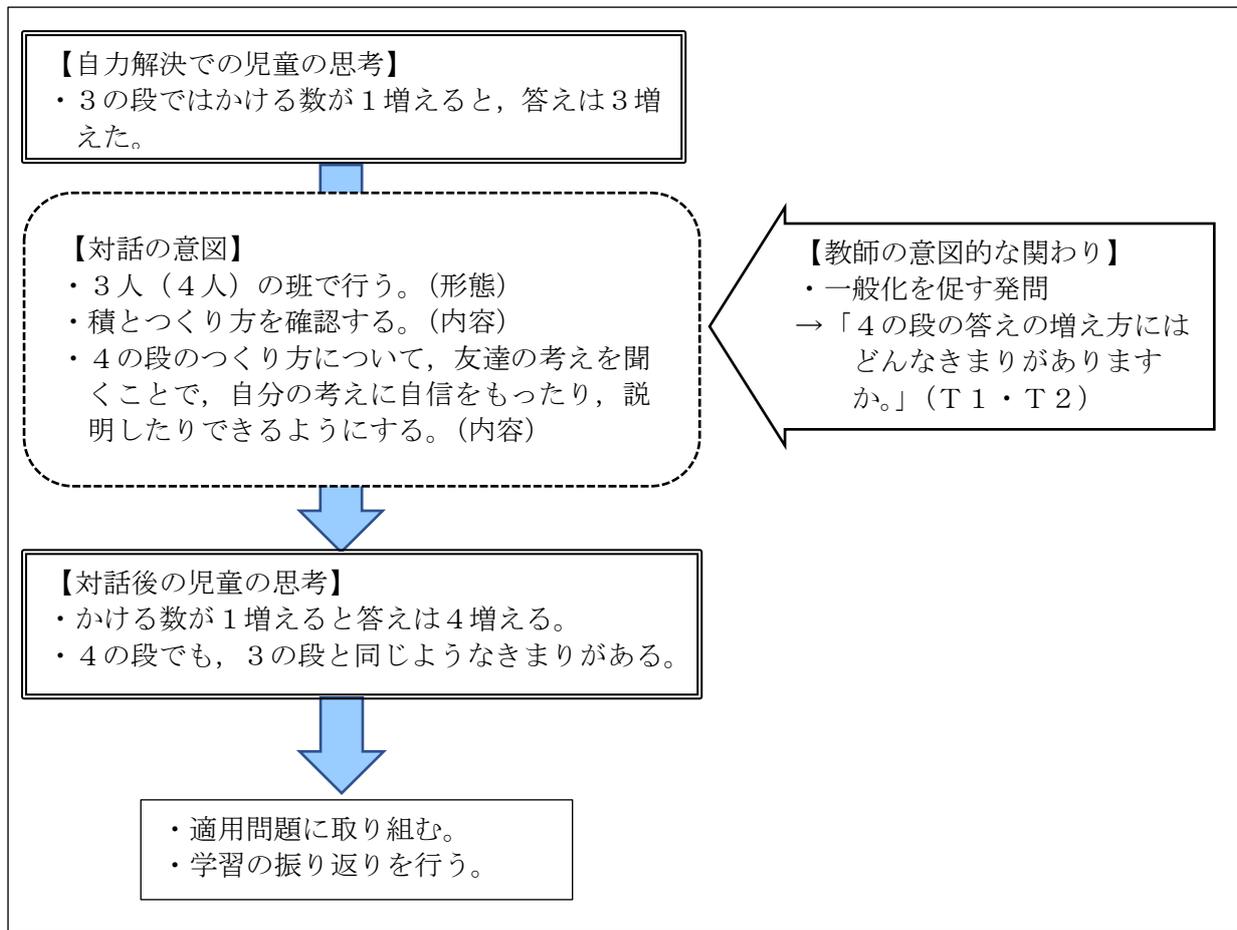
7	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。	① 学習内容を生活へ適用する。(いかしてみよう)		○思① 行動観察 ノート分析	・態① 行動観察 ノート分析
8	5の段の九九の構成の仕方を理解する。	① 5の段の九九を構成する。	・知①③ 行動観察 ノート分析		・態② 行動観察 ノート分析
9	5の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	① 5の段の九九を暗唱し、適用する。	○知④ 行動観察		
10		① 5の段の九九を用いた問題解決をする。	・知③④ 行動観察 ノート分析		
11	2の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。	① 2の段の九九を構成する。	・知②④ 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察	・態② 行動観察 ノート分析
12	2の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	① 2の段の九九を暗唱し、適用する。	○知④ 行動観察		
13		① 2の段の九九を用いた問題解決に取り組む。	・知③④ 行動観察 ノート分析		
14	3の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。	① 3の段の九九を構成する。 ② 用語「かけられる数」「かける数」を知る。	・知②④ 行動観察 ノート分析	・思② 行動観察 ノート分析	・態② 行動観察 ノート分析
15	3の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	① 3の段の九九を暗唱し、適用する。	○知④ 行動観察		
16		① 3の段の九九を用いた問題解決に取り組む。	・知③④ 行動観察 ノート分析		
17 本時	4の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。	① 4の段の九九を構成する。	・知②④ 行動観察 ノート分析	・思② 行動観察 ノート分析	・態② 行動観察 ノート分析
18	4の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	① 4の段の九九を暗唱し、適用する。	○知④ 行動観察		○態② 行動観察 ノート分析
19		① 4の段の九九を用いた問題解決に取り組む。	・知③④ 行動観察 ノート分析		
20	問題づくりによる、式の読みや式に表現することを通して、5, 2, 3, 4の段の九九の理解を深める。	① 数量の関係に着目し、乗法の用いられる場面をとらえ、式や言葉で説明する。 ② 乗法の式、被乗数と乗数の意味を理解する。	・知③ 行動観察 ノート分析	・思① 行動観察 ノート分析	
21	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	① 学習内容の習熟・定着を図る。 ② 数学的な見方・考え方を振り返る。	○知③④ 行動観察 ノート分析	○思① 行動観察 ノート分析	○態① 行動観察 ノート分析
22	学習内容の定着を確認する。	① 評価問題に取り組む。	○知①②③④ ペーパーテスト	○思①② ペーパーテスト	

6 本時の指導 (17/22)

(1) 具体の目標

乗数と積の変化の関係に着目し、既習の乗法について成り立つ性質を用いて、図や式を関連させて考える活動を通して、4の段の九九の構成の仕方を説明することができる。

(2) 研究との関わり



(3) 展開

段階	学習活動	教師の役割と指導上の留意点	
		主◇評価	
		T 1	T 2
導入 10分	1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④ 4のだんの九九をつくりましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの問題との違いを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使い、4ずつのまとまりになっていることを確認する。 ・3の段の九九のつくり方を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が課題や問題をノートに書いているか確認し、書けていない児童には書くよう促す。
	2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④ 4のだんのつくり方を考えよう。 </div>		
	3 課題の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習を生かして4の段のつくり方を考える。 		

展開
25分

- 4 集団解決をする。
- ・みかんの絵を基に、 4×1 から 4×5 までの九九をつくる。
 - ・ 4×5 と 4×6 の関係について考える。

- 5 自力解決をする。
- ・ 4×6 から 4×9 の構成の仕方を考える。

【自力解決での児童の思考】

- ・3の段ではかける数が1増えると、答えは3増えた。
- ・ 4×1 から 4×6 までは4ずつ増えている。

- 6 集団解決をする。
- (1) グループ
- ・つくった九九の答えを確認し、4の段のきまりを説明する。

- (2) 全体
- ・グループで話し合ったことを全体で共有する。

【対話後の児童の思考】

- ・かける数が1増えると答えは4増える。
- ・4の段でも、3の段と同じようなきまりがある。

- (3) 問題の答えを確かめ、まとめにつなげる。

・写真を基に 4×1 から 4×5 まで一緒につくる。

・4ずつ増えるイメージをもつために、絵や図を操作しながら確認する。

・机間指導をしながら、助言する。

・児童が問題をノートに書いているか確認し、書けていない児童には書くよう促す。

・ヒントコーナーで、つまづいている児童の支援をする。

・理解が困難な児童に対して、図を使い、操作しながら答えを導くよう助言する。

・グループ内で発表する順番を指示し、全員が自分の考えを話せるよう促す。

・前時までの学習を想起させ、かける数と答えの関係を考えるよう促す。

・机間指導を行い、全員が自分の考えを発表出来るように助言する。

・自分の考えをもつことが困難な児童には、友達の考えを聞いて考えるように助言する。

← 一般化を促す発問
【教師の意図的な関わり】

・グループでの説明を聞き、全体への集団解決につなげる。

・どのような話合いがなされていたか、T1と児童の考えを共有し、全体での集団解決につなげる。

◇乗法について成り立つ性質を用いて、4の段の九九の構成の仕方を考え、説明している。 **【思・判・表】**

・前時までの考え方と同じで、かける数が1増えると答えは4増えることを確認し、まとめにつなげる。

・児童の様子を見て、理解が不十分な児童には補足説明をする。

終末 10分	7 学習をまとめる。 ・ 4の段の構成の仕方をまとめる。	・ 児童の言葉を使ってまとめる。	・ ノートに正しく書けているか確認する。
	⑧ かける数が1ふえると答えは4ふえることをつかうと、4のだんの九九をつくることができる。	・ 机間指導をしながら、つまづいている児童に助言する。	・ 机間指導をしながら、つまづいている児童に助言する。
	8 適用問題に取り組む。	・ 前時までの学習と本時の学習を比べて振り返るよう促す。	・ 振り返りを自分の力で考えることが困難な児童に対して、個別に問いかけることで、言葉を引き出す。
	9 本時の学習を振り返る。		

(4) 板書計画

⑥ 4のだんの九九をつくりましょう。

⑦ 4のだんの九九のつくり方を考えよう。

⑧ かける数が1ふえると答えが4ふえることをつかうと、4のだんの九九をつくることができる。

3×1=3
3×2=6
3×3=9
3×4=12
3×5=15
3×6=18
3×7=21
3×8=24
3×9=27

4×1=4
4×2=8 (4+4)
4×3=12 (8+4)
4×4=16 (12+4)
4×5=20 (16+4)

4×5=20
4×6=24
4×7=28
4×8=32
4×9=36

4×7=28
4×8=32
4×9=36

4×1=4
4×2=8
4×3=12
4×4=16
4×5=20
4×6=24
4×7=28
4×8=32
4×9=36